



第202号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長
渡辺 宣裕
編集人 会報編集委員長
五味 岸夫
印刷所 須坂新聞社

さらなる職能向上を

理事長 渡辺 宣裕

ものもあります。

上高井教育会は明治一八年二月一八日に発足して以来、本年度で一二〇周年を迎えています。この間歴代教育会長様、賛助会員の皆様をはじめ先輩の方々、地域の皆様、PTAの皆様に支えられ今日の教育会の姿があります。

さて、最近の教育に関する課題は山積しております。ちよつと数え上げただけでも、教員評価(管理職、一般教員)運動部活動の問題、高校改革プランを受けての推進委員会の動き、指導力不足教員、総合的な学習の時間がやり玉に上げられている学力低下の問題、不登校生の増加、生徒指導に関する問題、特別支援教育に関わる問題、教員のモラルに関わる問題等々いくつも浮かんできます。

この中には、国や県などの教育行政レベルのこともありますが、いくつかは我々の自覚や研鑽によって活路を見いださなければならぬ

「つてみる」と言われました。藪蛇になってしまいました。ますますわからなくなってしまうました。

後は書物と委員会の役員の先生が頼りでした。

そして小学校二年の図形の仲間分けの授業を展開しました。研究会でいろいろ言われたと思いますが、印象に残っている言葉は、尊敬する先生から「渡辺は図形を黒板に添付するのに画鋲を使っ

たが、情操教育の授業を意識すればゼロテープになるはずだ」と言われました。まだ私の授業は形を追っている部分があることを痛烈に反省させられました。

私は授業を喜んでやるほどの積極性はありませんでしたが、授業に対する自分の課題は持っていました。そしていろいろな先生から批判をいただくことで少しずつ成長できたのではないかと思います。

その後、周りの環境の変化や先生方の反省を生かしながら、研究委員会の姿も変わってきました。委員会が教科中心にまとめられました。また研究会は、二年に一度の研究授業を行うというように変わってきました。教員の異動を考えると隔年の授業がはたして、その目的に沿うものか疑問も残りましたが、今年度の各研究委員会の計画を見ると全委員会が授業を公開することになっており、高めあおうとする先生方の熱い気持ちが伝わってきました。

さらに、昨年の代議員会に提案した「研究委員会の統廃合」については、理事会の案が否決され、会員の積極的な意見が反映されました。この点も高く評価したいと思います。職能の向上を定款に掲げている教育会です。自己を高めるよい機会にしたいものです。

研究委員会と車の両輪にあたる同好会は、我々教員としての生涯学習にあたる意味を持っています。一つの事を主体的に継続的に自己研鑽することによって、教員としての資質の幅をさらに広げることが出来ます。なかなか時間的に難しいこともありますが、土日や長期休みを利用して個々の課題にせま

ってほしいと思います。会員一人一人が参加参画することで、本会をさらに充実発展させたいと思います。(墨坂中)

教育会だより

選挙公示(役員選挙)

第1回代議員会 第2回選挙管理委員会

理事長選挙 第3回選挙管理委員会

第2回代議員会 第4回選挙管理委員会

副理事長・理事・信教常任委員・信教代議員選挙

第5回選挙管理委員会

第1回理事会

教育会会計監査会

第3回代議員会 第6回選挙管理委員会

監事選挙 第7回選挙管理委員会

第2回理事会

研究総委員会・同好会発足(於須坂小学校)

研究委員会・同好会世話係・委員長・会長

初任者歓迎会(於ナガイホール)

郡研究推進委員会①

上高井教育研究会三団体発足会

総会前日準備

教育会定期総会・講演会(於須坂市役所西館)

平成16年度会務報告並びに決算

平成17年度事業計画並びに予算の承認

〇会員意見発表 竹前研一教諭(豊洲小学校)

表題「野に出る活動の学びをどうとらえ、

カリキュラムづくりをするか考える」

〇講演 講師 田中統治先生(筑波大学教授)

演題「小中の連携を重視した教育へ」

研究委員長会

郡研究推進委員会②

第119回信濃教育会定期総集會

(於 軽井沢大賀ホール) 20名出席

第3回理事会

第4回代議員会

郡研究推進委員会③

同好会②

同好会③

上高井教育会会報第202号発行

小中の連携を生かした カリキュラムの創造

研究委員会会長 黒岩 和博

上高井の小中学校は、いずれも中小規模校です。教育会には十五の研究委員会があり、会員はいずれかの研究委員会に所属して研究活動をしています。学校単位ではできにくい、教科の専門性を共に追究し合い切磋琢磨すること、私たちにとって大切な研修の場です。児童・生徒の学力問題が叫ばれている今日、教師に対する社会の目は年々厳しさを増してきています。研究委員会ごとに、年八回の研究推進委員会と年一回の研究日の充実を、どう図るか、真剣に考えて取り組みたいものです。

本研究委員会では、新教育課程が全面実施された平成十四年度から、『新しい自分に気づき「生きる力」を育むカリキュラムの創造』をテーマに掲げ、研究を進めています。このテーマには、基礎的、基本的な力を身につけること、主体的に問題を解決している資質・能力づくり、共に生きていこうとする心を育むためのカリキュラムづくりが求められています。各学校では、学校のもつ地域性や社会性、児童・生徒の実

型がシンプルで学びやすい。子どもにめあてを持たせ、子どもが主体的に学習に取り組む授業展開を。★小中のカリキュラムをつなげるには、小学校・中学校の文化（ものの考え方）をすり合わせていくことが必要である。カリキュラムの創造に向けて、小中の連携の視点からご指摘いただきました。本郡の研究委員会の特性を生かして、さらにカリキュラムの研究が深められるものと期待しています。（須坂小）

本校の中核活動

豊かな共生社会 実現に向けて — 東中学校 —



平成17年度 県外視察者 上高井教育会(敬称略)

学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施期間
高山小	前田 博展	体験を重視した道徳教育	関東方面	11月
小山小	船崎 美穂	合唱指導	関東方面	2学期
"	小松 秀和	生徒指導	関東方面	2学期
森上小	湯本 明美	特別な支援を要する児童の校内支援体制と指導法	東京方面	2学期
日滝小	藤澤 隆之	授業づくり・学級づくり	神奈川県	7月又は11月
"	中村 新治	いきいきと楽しく学ぶ授業づくり	国分寺市	12月7日
豊洲小	宇治 茜苗	音楽的諸能力を身につけさせる音楽器の活用	新潟方面	11月
井上小	田中 敬士	学力向上の取り組み	北陸方面	10月
旭ヶ丘小	北澤 秀忠	体力づくりを全校で取り組んでいる学校の視察	千葉県	1学期6月頃
仁礼小	池内 博	社会科及び総合的な学習の時間における地図指導	京都	8月19～20日
小布施中	中澤 正明	異学年交流による「総合的な学習の時間」の展開	東京方面	11月26～27日
"	太田 壽久	小中連携の教育	筑波大附属中	1月頃
常盤中	小川 洋史	進路指導教育研修	静岡県焼津	9月10日
"	三溝 清洋	学校の野外環境づくり	岡崎市	7月15日
"	中村 英雄	吹奏楽の指導	東海地区	8月5日
相森中	柴 直人	国語教材研究～生徒に還元出来る教材の発見～	東北方面	11月中旬
"	松木 智子	特色ある学校づくりへのカリキュラム研究	関西方面	11月
"	片山 洋一	小学校の英語活動	東京(関東)	11月
墨坂中	小林 巧	感じとり体験して、生きる力が育つ授業づくり	山梨県王比中	10月27、28日
東中	河西ゆりか	美術科における評価のあり方	関東	9月～10月

本校の「総合的な学習の時間」は、「アズマタイム」と名付けられ、個から他者、さらに社会へと目を向けながら自己を深く見つめていくこととする学習を展開している。中でも、全校で行っている県道長野須坂インター線沿いにサルビアの花を植栽する活動は、十年以上に渡り地域の環境美化に貢献し、中核をなす活動として定着している。アズマタイムの学習題材は学年で固定している。

一年は峰の原高原自然体験学習を中心に友達への理解を深めることをねらい、二年は職場体験学習を通ず中で自己理解を深め、将来へ向けたアプローチの第一歩となるように仕組んでいる。

三年は、交流前にガイダンスを行う。今年も、市内の福祉施設「ひだまり作業所」の所長さんを招き、交流に臨む心構えを持たせるようにした。

これは、お話を聞きしての生徒の感想である。不安・心配などの言葉を連ねながらも、一歩前へ踏み出そうとしている子どもたちの姿がうかがえる。

五月二十六日からは、さつき訪問交流活動が始まった。「保育園で交流してきたせいでしょうか、帰宅した時の表情がいつもより和やかでした。」と生徒の様子を伝えてくださる保護者もいて、今年もまずまずのスタートがきれた。豊かな共生社会の実現に向けて……

「アズマタイム」が包含する課題は大きく重いが、子どもたちの成長を願い、職員一丸となって奮闘する日々である。

(古川裕子)

教師としての自分は 三分の一の自分

同好会会長 早川 毅

イギリスでは、自分をとりえる時、三で割る考え方があるといふ。仕事を自分の生活者としての自分、そしてプライベートの自分である。この考え方は、イギリス人の生き方を特徴づけており、会社人間などという言葉が存在する日本人との違いを際立たせているように思える。この考え方によると、仕事をする教師としての自分は三分の一の自分だということになる。後の三分の一と三分の一の充実が、イギリス人の豊かさである。

強さを作り出しているように思える。仕事から離れると個人に戻るイギリス人は、ほとんどの人が、職場と自宅以外に一人になるパーソナルスペースを持っている。それが一人きりになれる散歩道であったり、行きつけのパブの自分が決めたビールを飲む席であったりするという……。

前置きが長くなりました。会長の職にある者としては、本来の三分の一ではなく、他の三分の二の充実の勧めということになりませんが、本年度

忙しい日々の中に ゆったりとした時間を

俳文学同好会 寺尾 充

せっかくの機会ですので、同好会の紹介をさせていただきながら、是非参加をしてみてくださいという誘いをしたいと思います。

本同好会は、毎年少人数で（本年度六名）活動していますが、忙しい日々の中で、なかなか同好会日に全員が参加できることはありません。しかし、参加した後は皆さん楽しかったなあと改めて帰られるようです。

「忙しかったんだけど、思い切って参加してよかった。あわただしい日々をしばし忘れ

も熱心な先生方の参加を得て発足することができ、感謝申し上げます。伝統ある上高井の各同好会が、それぞれの会員のニーズにあった活動が展開され、充実することを期待申し上げます。

ところで、「あなたが食べたものが、あなた自身」という言葉があります。食べたものの質や量、種類などがその人を形作るように、取り入れたもの、つまり、体験したり学んだりしたのもその人を形作ります。そのようなことに関わった記事が載っていました。中西野高校から長野高校に転任されたY先生は、本をよく読まれたそうですが、今も年間一五〇冊の本を読まれるそうです。その姿勢を学

ます。必ず、よいところをあげてご指導ください。

毎回、吟行という形で俳句の実作を行い、講師の先生のご指導をいただきますが、では、昨年度、小布施の浄光寺で行った時の様子を紹介します。

六月二十七日に、小布施の浄光寺で行いました。ちょうど

紫陽花が見ごろの境内で、目に付く季語や、言葉を教えて

いただきながら歩きました。これが大変勉強になります。

梅雨じめり、竹の秋、などの季語を教えていただきました。

歩きながら句作してもいいのですが、境内の茶店でおやきとお茶で一息いれながら俳句にまとめました。その後、境内が混み始めたので、小布施の町に下りて喫茶店に場所を移

びたいものだと思います。

国連難民高等弁務官の緒方貞子氏にインタビューした人の記事で印象的なことがありました。「今の日本の若い世代の人達には、何が足りないと思われませんか。」という質問に対し、考える間もみかず「好奇心が足りませんね。」とどこか憐れむような口調で言われたということです。若い世代だけでなく私たちもこの言葉を受け止め、三つに割った一つ一つの充実ができれば、互いに良い影響を与えられることができます。同好会は、確かにその一つの充実に関わ

れます。

充実のひとつを持てたらと思えます。

（東 中）

しました。句作の後の田中先生のご指導は、いつも良さを取り上げて教えてください。温かいもので、「よかったなあ。また作ってみよう。」という気持ちになります。

「吟行は雰囲気を感じて材料を拾うこと」「考えすぎずつきりと」「物事を多く言わず削って残ったもので一句に。」というご指導もありました。

一度参加した人は、必ずまた参加したくなります。日々の忙しさをしばし忘れてみませんか。

八月一日に、夏期講習会を計画しています。是非気楽にご参加ください。

（栗力丘小）

本校の宝④

豊かな環境・地域を誇る

日野小学校

明治七年、須坂市村山長勝寺に勧義学校、須坂市沼目薬師堂に齊家学校が作られた。これが、日野地区の学校の始まりである。この二校が明治十九年沼目学校として合同、明治二十四年には、八重森に移転し、日野小学校となる。日野尋常高等小学校と名を変え、明治四十三年に塩川の現在地に移転している。日野小学校ではこれを創立の起点とし、爾来九五年を数える。九五年間、日野小学校の歴史を見つめてきた藤が正門で、来校者を迎える学校である。

扇端の湧水地と千曲川・百々川氾濫原を中心として発展してきた地域であり、江戸時代以降は豊かな水田地域であったことが推察される。日野小学校の周りは、リ

ンゴ・ブドウの果樹園や畑・水田が広がっている。文字通りの田園地域である。矢木沢川と百々川の間を結ぶ宮川を中心とした用水にも恵まれており、ハヤなどの小魚を釣ることができる。

登下校の際、子どもたちが川で遊ぶ姿も見られる。総合的な学習や理科の学習でも訪れている。

日野小学校の中庭には八



「ワッサー」
（山根白桃とネクターリンのかけあわせで日野地区八重森で初めてできたもの）という果樹の栽培に関する学習に三年生が総合的な学習の時間、取り組んでいる。この学習にご協力いただいている方も元PTA会長さんである。

（松川 保）

火ばら談義



森上小 湯本あけみ

「竹一管」の魅力

松澤 功

お正月になると巷のあちこちで、必ずといって良いほど流れる「春の海」。宮城道雄が一九二九年に作曲した、お箏と尺八の有名な二重奏曲で、日本人誰もが耳にしたことのある馴染みの曲である。

この曲は、尺八をフルートやバイオリンに代えて演奏されることでも知られている。私も、ある校長先生の祝賀会や友人・教え子の結婚式で、お箏やピアノで伴奏していたとき、フルートで演奏したことがある。フルートでも日本的な情趣が自然と流れ出て、吹いている本人が相当に気持ち良くなる名曲だ。

有名なフルート奏者では、ピエール・ランバルやセヴェリノ・ガッゼローニなどの演奏がある。私の好みで言うと、ガッゼローニの演奏が上品で音色に艶があり、低音と高音のダイナミックな動きにゆったりとした「春の海」の豊かさを感じることができ、何度聴いても飽きない名演だ。

尺八ではテレビなどで演奏されるのを聴くかぎり、意外やがっかりさせられることがある。ところが、尺八の巨匠重要無形文化財保持者人間国

宝、青木鈴慕の演奏を聴くや、その精神性の深さと格調高い演奏に度肝を抜かれる。日本の伝統音楽のすばらしさを思う存分見せつける、うしろ名演奏だ。単純な「竹一管」でどうしてこんなにも幅広く奥深い表現ができるのか驚かされる。尺八は、頭を上下させ、首を振り、唇を振るわせるなどして、演奏者の個性が最もよく表れる楽器ということだ。たった一音でも、そこに微妙で繊細な表情が付いてくる。木管の乾いた美しい音色、くねらせたものの悲しい泣き、そして、時に火を噴くような激しさ。日本人の魂を揺さぶる音だ。

フルートとは楽器の特性が違うので、比較することは意味の無いことだが、フルートで「春の海」を吹いてみて、一層尺八のすばらしさに感動する。日本人の精神性の深さに誇りを感じる。

最近、日本の伝統音楽を見直し、学校教育に取り入れる動きが出ているのは良いことだ。吉田兄弟の三味線が、新しい感性で若者に受け入れられている。「鬼太鼓座」の和太鼓など、子どもたちに存分に聴かせたいと思う。(須坂小)

マイ・ランニング生活

唐澤 久樹

右足の親指の爪が黒ずんでいる。マラソン初挑戦の輝かしい証(?)とも言えるし、フルマラソンを甘く見ていた報いとも言える。

我がマラソン生活は、須坂の地に赴任してから始まった。きっかけは「竜の里マラソン」に先生たちも出ませんか。」というライバル(本校の先生)のひと言である。「健康維持のために、それじゃ五kmコースで。」と言うと「何言ってるんですか。一〇kmです。一〇km!」と簡単に一蹴されて

しまった。ささやかな意地もあって申込書の一〇kmに〇をしてしまったのが事の始まりである。

最初は教員住宅の回りをタカタカと走り始めたが、案の定すぐ息切れしてしまふ。「イヤ!歳も歳だし無理はできない」と思いつつも、一〇kmに〇をした手前、最後の五〇mぐらいはラストスパートをしてみたりもした。しかし、早朝ランニングの回数を重ねていくと、走った日は一日爽快感もあり、しかも夜の飲み物がう

汗と涙の3ポイントシュート

片山 洋一

ここ相森中学校に赴任して早いものでもう六年になる。部活動では、女子バスケ部の顧問をやらせてもらっているが、毎年、毎年ドラマがあり、汗と涙と感動の一コマを味わわせてもらっている。

今年の三年生は、一六〇cm以上ある部員が一人しかおらず、全体的に小柄である。部長のAさんは、一五〇cmほどの身長だが、一四〇cmのキャプテンとともにスピードのあるドリブルであつたという間にボールを運んでいく。身長ハンディを、スピードと粘りで克服している。また、Aさんの持ち味は3ポイントシュートである。タイミングよく

打たれたシュートは、リングに触れることなく、きれいにゴールネットを揺らす。普段のシュート練習も、3ポイントの練習を多くやっている。「千本練習して、試合で一本決まる。」と言われるほど難しいシュートであるが、試合の流れを変える大切なシュートである。

六月の十一、十二日の郡球に向け、多くの練習試合を積んでいった。Aさんの3ポイントは思ったように入らず、苦しい時期が続いた。本人も悩んでいたようだ。郡球の一日目、二試合を戦い一勝一敗で二日目の決勝トーナメントに進んだ。この二試合、Aさ

まい。その味を覚え、「竜の里マラソン」への挑戦を終えた後も続いていると、他にもランニングの効果が現れてきた。例えば、血液検査の結果の一や十が消え、はけなかったズボンがはけるようになった。更に風呂に入った時上から見えたお腹の段々が消えたのも嬉しかった。

その後、地元の良い同好の士に誘われていくつかの駅伝にも参加するはめになったが、「タスキをつなぐ」ランニングは一人で走るのとは違った厳しさや楽しさがあることも教えられた。何よりも仕事を離れた新しい仲間ができたことはありがたいと感じている。フルマラソン挑戦の後の夢

は、「富士登山マラソン」であるが、こればかりはいつのことになるかわからない。自分なりに今までランニングが続いてきた理由はいくつかあるが、ライバルを含め、仲間がいたことが最大要因であろう。最後に、この紙面を借りて「井上ランニングクラブ」の会員募集のお知らせをさせていただきたい。汗をかいた後の爽快感と〇ールの美味しさを一緒に味わってみたい方は、井上小までご連絡を。

(井上小)

んが打った3ポイントは一度も入ることがなかった。二日目の第一試合、準決勝で何とか一本入ったものの、流れをつかめず敗れてしまった。三位決定戦は、新人戦で敗れている小布施中とだった。小布施の選手は体格がよく、ゾーンディフェンスを苦手とする相森は分が悪かった。試合前選手たちの表情は暗かった。緊張感の中でスタートした試合は、Aさんの3ポイントで幕が開けた。他の選手の3ポイントも決まり、一気に波に乗った。Aさんは、今までの鬱憤を晴らすかのように3ポイントを打ち、決めていった。Aさんは、この一試合で六本の3ポイントを決め、チームも圧勝し北信大会への切符を手にすることができた。

部長として部員をまとめながら、黙々と練習を積んでい

編集後記

から梅雨だと思っていたら後半はしっかりと雨が降り。今年も会報発行の時期となりました。お忙しい中、原稿を寄せて頂いた皆様に心より感謝申し上げます。本年度も、会報発行は年二回、次の委員でお届けします。

委員長 五味 岸夫(仁礼小)
副委員長 畠山 信重(相森中)
委員 森山 裕士(栗方丘小)
田中 敬士(井上小)
大草 政子(森上小)
柳澤 和彦(高山小)
小川 洋史(常盤中)
青木 典子(小布施中)